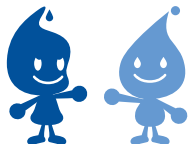


# 第43期 株主通信



メタウォーターの  
マスコットキャラクター



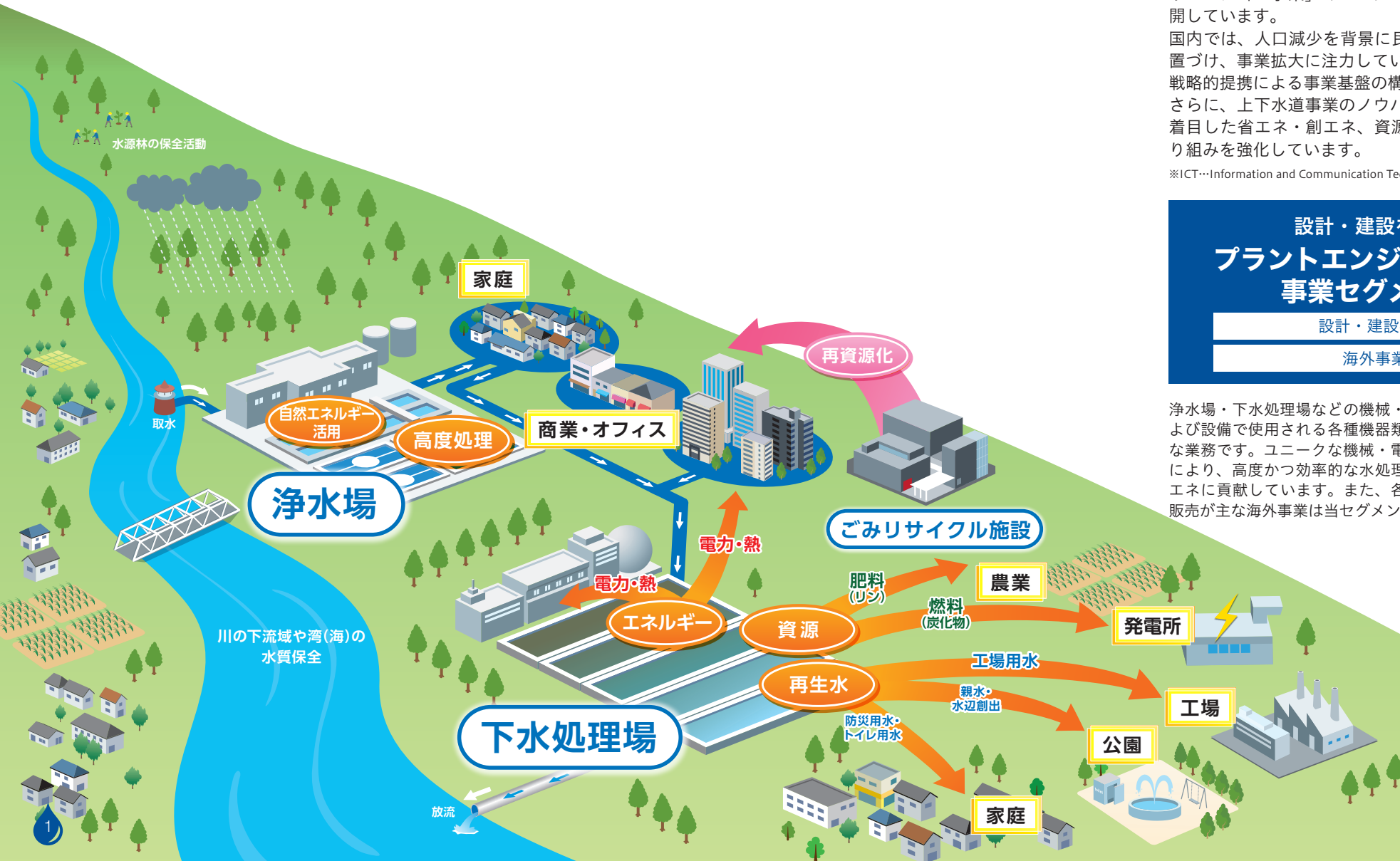
めーちゃん

たーくん

メタウォーター株式会社

証券コード 9551

# 私たちは、くらしや産業に欠かせない「水・環境インフラ」を自治体、パートナー企業、地域企業とともに支え続けます。



## 「水・環境インフラ」のトータルソリューション

メタウォーターグループでは、浄水場・下水処理場向けの機械設備や電気設備の設計・建設を核とした「プラントエンジニアリング事業」と、施設の運営や設備の運転、維持管理（保守・点検）、補修工事などを行う「サービスソリューション事業」の2つのセグメントに事業を大別し、約40カ所の国内拠点と6カ所の海外拠点を中心に事業を展開しています。

国内では、人口減少を背景に民間活用や事業運営の効率化が求められる中、官民連携（PPP）事業を成長分野と位置づけ、事業拡大に注力しています。また、海外事業をもう一つの成長分野と位置づけ、欧米を中心としたM&Aや戦略的提携による事業基盤の構築に取り組んでいます。

さらに、上下水道事業のノウハウと先進のICT<sup>※</sup>技術を活かしたクラウドサービス、自然エネルギーや下水道資源に着目した省エネ・創エネ、資源リサイクルなど、水・環境インフラのサステナビリティ（持続性）に貢献する取り組みを強化しています。

※ICT…Information and Communication Technologyの略。コンピュータやインターネットに関連する情報通信技術のこと。

設計・建設を行う  
**プラントエンジニアリング事業セグメント**

設計・建設事業
海外事業

運転・維持管理を行う  
**サービスソリューション事業セグメント**

運転・維持管理事業
官民連携（PPP）事業

浄水場・下水処理場などの機械・電気設備の設計・建設および設備で使用される各種機器類の設計・調達・販売が主な業務です。ユニークな機械・電気融合技術と商品開発力により、高度かつ効率的な水処理・汚泥処理、省エネ・創エネに貢献しています。また、各種機器類の設計・調達・販売が主な海外事業は当セグメントに分類しています。

浄水場・下水処理場などの機械・電気設備および設備で使用される各種機器類の運転、維持管理、補修工事などの各種サービスが主な業務です。また、浄水場の運営をはじめとする官民連携（PPP）事業やごみ処理施設・リサイクル施設の設計・建設、運転、維持管理、補修工事も当セグメントに分類しています。

ごあいさつ

このたび代表取締役社長に就任いたしました中村 靖でございます。  
 まず、熊本地震で被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。被災された地域の日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当事業をさらに成長・発展させ、より大きな社会貢献を果たすべく経営に邁進してまいりますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

減収減益ながら中長期的な成長に向けて受注残が増加

2016年3月期は、2015年5月に策定した3カ年の中期経営計画の初年度として、国内外の事業基盤や新たなソリューションの開発を強化するとともに、国内の地域企業やパートナー企業との連携による事業領域の拡大を進めてまいりました。

その結果、国内では、民間委託や広域化を伴う官民連携案件を、例年のペースを大きく上回る5件受注・参画しました。とりわけ、熊本県荒尾市の官民連携案件では、当社が民間提案制度を活用して事業化を促し、水道事業のかんりの部分を包括的に受託するという先進的な事例となりました。また、海外では、安定成長が見込まれる欧米市場を中心に事業展開を加速し、2016年1月には米国の水処理エンジニアリング会社Aqua-Aerobic Systems, Inc. (アクア エアロビックスシステムズ)を完全子会社化するなど、積極的に経営資源を投入して事業基盤の構築を図りました。

2016年3月期の業績は、受注時期の遅れや長納期案件の増加などから売上計上時期に遅れが生じ、売上高は1,031億円(前年同期比▲3.6%)、営業利益は54億円(同▲34.3%)、当期純利益は28億円(同▲44.3%)となりました。

受注高については1,125億円、期末の受注残高は1,072億円と、中長期的な成長に向けた布石を打つことができました。

成長分野は「官民連携 (PPP) 事業」と「海外事業」

国内市場は、施設の老朽化や事業体の財政難、技術者不足などの課題があり、官民連携での事業運営をはじめ、民間企業の領域が拡大しています。

一方、海外では、将来的な人口増で水資源問題は深刻化し、上下水道分野への投資が活発化することが予測されます。

そうした状況を見据え、当社は、設計・建設を主とするプラントエンジニアリング事業や運転・維持管理業務を主とするサービスソリューション事業を基盤分野として強化すると同時に、長期的な成長分野として官民連携 (PPP) 事業と海外事業に注力していきます。これについてはすでに「サービスソリューション事業本部」に属していた「PPP事業部」と、「営業本部」に属していた「海外センター」を、社長直轄の「PPP本部」「海外本部」に昇格する4事業体制に再編しました。

また、「水道」「下水道」「資源環境」という事業領域を「エネルギー」「地球環境保全」「サステイナブル」「技術研究開発」「パートナーシップ」「社会貢献」「品質・安全」の7つの経営視点からとらえることで、企業力の強化につなげていきます。

これらの取り組みにより、2017年3月期は増収増益を目指します。株主さまへの還元につきましては、企業価値を高めるとともに、安定配当を重視し、2016年3月期同様、1株当たり年間58円を予定しております。

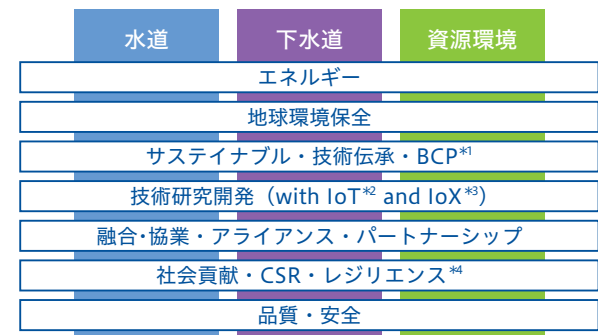
また、中期経営計画の最終年度である2018年3月期には、売上高1,300億円、営業利益100億円、当期純利益60億円を目標としており、その達成に向け、引き続き着実に各種施策を推進してまいります。

当社が携わる事業そのものが社会に貢献するものです。「水で救える大切な命がある」、「水で変わる新しい暮らしがある」、「水で解決できる社会的な課題がある」、という高いモチベーションを胸に、社会の発展と地球環境の保全に貢献し続けてまいります。

▶ 4事業体制による責任と権限の明確化と意思決定の迅速化



▶ 7つの経営視点による企業力の強化



\*1 BCP: Business Continuity Plan 事業継続計画  
 \*2 IoT: Internet of Things の略。あらゆるモノがインターネットに接続すること。  
 \*3 IoX: Internet of experience (当社用語)  
 \*4 レジリエンス: しなやかな復元力



メタウォーター株式会社

代表取締役社長 中村 靖

プラントエンジニアリング事業部門、サービスソリューション事業部門の責任者、経営企画本部長として管理部門の統括などを歴任。幅広い分野の業務執行に関する豊富な経験・実績を持つ。  
 2016年6月 代表取締役社長に就任。

水・環境インフラを将来にわたって支え続ける。  
これが私たちの最も重要な使命であり、事業の推進力です。



エンジニアリング

トータルソリューション

事業運営会社へ

0 (億円)

## METAWATER

2008年4月  
日本ガイシ株式会社と富士電機株式会社の水・環境関連会社が合併し、メタウォーター株式会社が発足

2011年4月  
上下水道事業を支援する新事業ウォータービジネスクラウド(WBC)を立ち上げ



2013年1月  
当社初の海外現地法人として米国にMETAWATER USA, INC.を設立

2013年3月  
水道機工株式会社と業務提携

2013年4月  
本社移転

2013年6月  
•株式会社日水コンの子会社である株式会社イオの増資を引き受け  
•国際航業株式会社と業務提携  
•オランダのPWN Technologiesと業務提携

2013年8月  
オランダのRood Wit Blauw Holding B.V.の第三者割当増資を引き受け、資本業務提携

2014年4月  
月島機械株式会社の子会社との共同出資により、薬品事業を担うハイブリッドケミカル株式会社を設立

2014年5月  
富士通株式会社と共同で、ビックデータ分析とウェアラブルデバイスを活用した浄水場の保守点検における実証実験を開始

2014年9月  
上下水道施設の維持管理を担うメタウォーターテック株式会社を設立

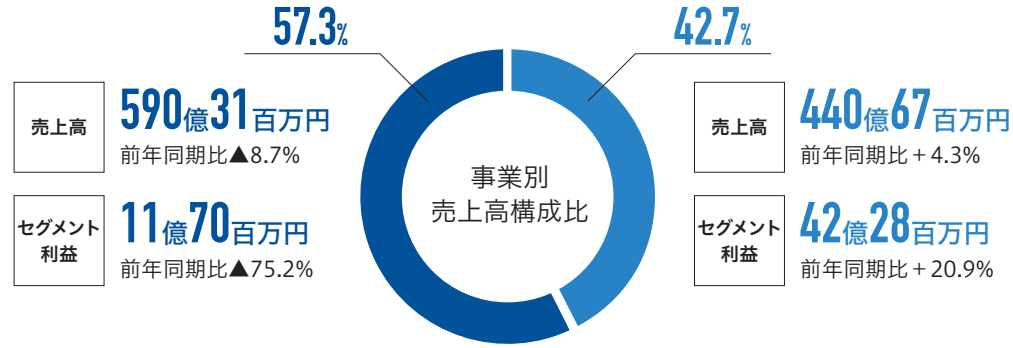
2014年12月  
東京証券取引所市場第一部上場

2015年4月  
株式会社NTTデータと上下水道事業向けサービス分野で協業を開始

2016年1月  
米国水処理エンジニアリング会社であるAqua-Aerobic Systems, Inc.を完全子会社化

## プラントエンジニアリング事業

## サービスソリューション事業



### 概況

国内事業においては市場環境変化に対応した体制づくりを進め、補完関係にある企業とのアライアンス、他社との差別化技術・製品の開発とその拡販、および全社的な経費節減、コストダウンなどの収益改善の取り組みを推進しました。その結果、老朽化施設の更新や維持管理の需要および民間委託や広域化をとまう官民連携案件の受注につながることができました。

また、海外事業においては、安定した市場成長が見込まれる欧米を中心とした事業展開を加速し、M&Aによる積極的な経営資源の投入を行い事業基盤の構築を図りました。

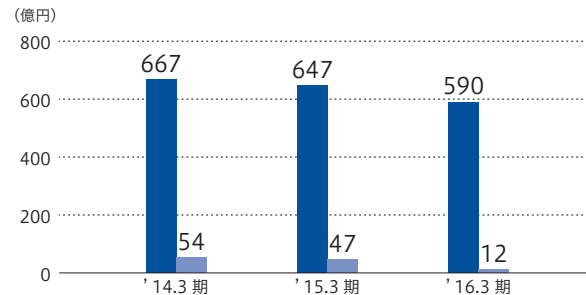
### プラントエンジニアリング事業

受注時期の遅れや土木・建築工事の遅れ、長納期案件の増加により、売上計上時期に遅れが生じたほか、一部案件での損益悪化やM&A費用が生じたことから、前年同期比で減収減益となりました。しかし、10億円以上の大型案件を年間で10件受注するなど受注残高は増加しました。

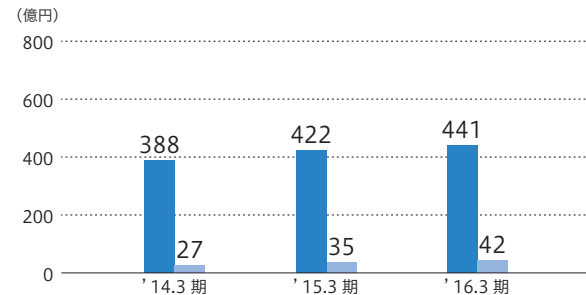
### サービスソリューション事業

新規の運転・維持管理を2件業務開始するなど、前年同期比で増収増益となりました。また、運転・維持管理の長期契約、包括委託を2件受託したほか、官民連携案件の受注・参画は、近年のペースを上回り、受注残高は増加しました。

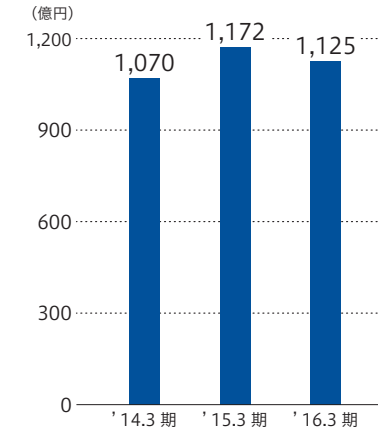
### 売上高/セグメント利益



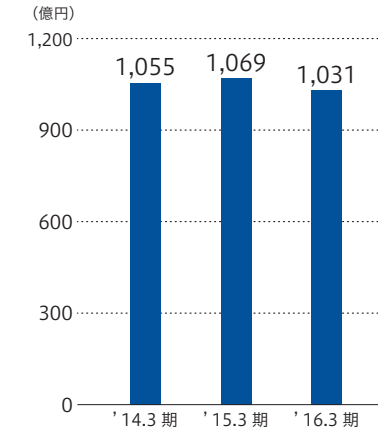
### 売上高/セグメント利益



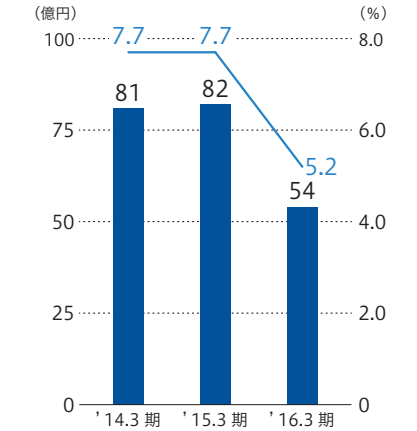
### 受注高



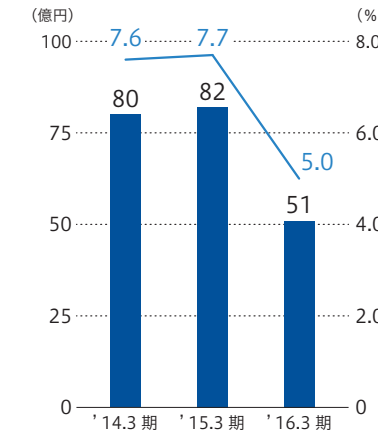
### 売上高



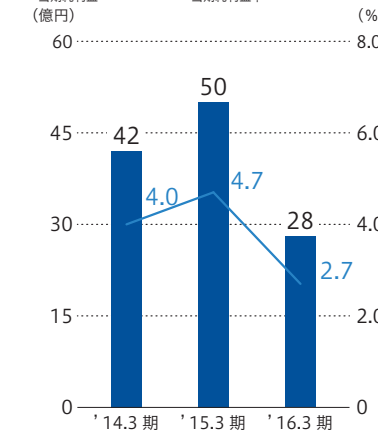
### 営業利益と営業利益率



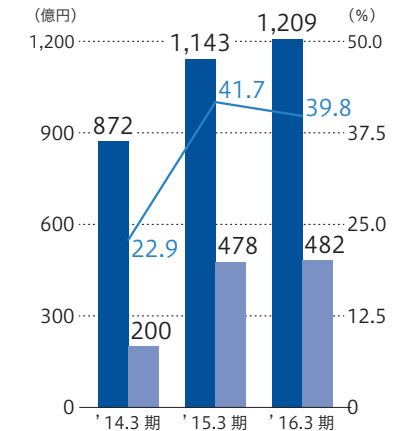
### 経常利益と経常利益率



### 親会社株主に帰属する当期純利益と当期純利益率



### 総資産と純資産 自己資本比率



### 研究開発

下水道の技術開発を推進する目的で国土交通省が主導する実証事業「B-DASH」で、気象レーダーと高度な降雨予測、浸水予測などのソフトウェアを組み合わせた新たなゲリラ豪雨対策の実証研究を受託しました。また、平成25年度B-DASHに採択された下水汚泥処理の省エネと創エネに関する実証研究が国の機関によってガイドライン化されました。これにより全国自治体への導入が期待されます。

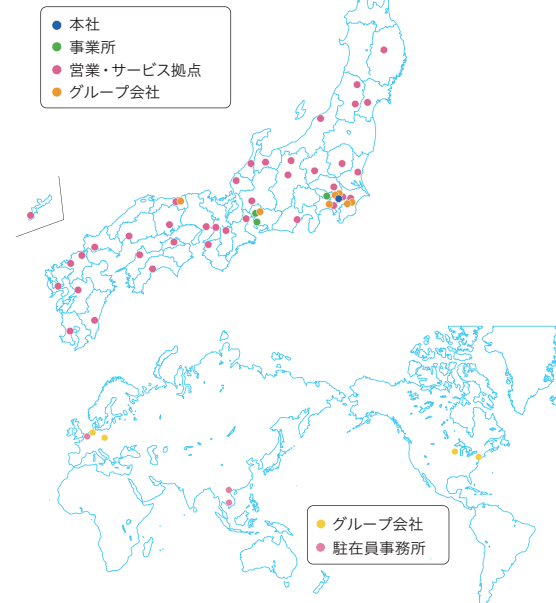
また、「モニタリング支援システム」「アセットマネジメントシステム」などウォータービジネスクラウド(WBC)のコンテンツ拡充や下水汚泥処理の省エネ化に貢献する「低含水ベルトプレス脱水機」など、時代のニーズに適した当社独自の技術・製品を開発しました。

## 会社概要 / 株主メモ

### 会社概要

- 会社名 メタウォーター株式会社
- 英文社名 METAWATER Co., Ltd.
- 本社所在地 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町一丁目25番地 JR神田万世橋ビル
- 設立 2008年4月1日
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
- 業種別分類・コード 電気・ガス業・9551
- 主な事業内容 上下水・再生水処理、海水淡水化等の水環境分野の各種装置類、施設用電気設備等の製造販売、各種プラントの設計・施工・請負
- 従業員数 2,839人 ※2016年3月31日現在、連結
- 主要グループ会社
  - メタウォーターサービス株式会社
  - ※特別目的会社(SPC)を除く
  - METAWATER USA, INC.
  - Aqua-Aerobic Systems, Inc.
  - Mecana Umwelttechnik GmbH
  - メタウォーターテック株式会社
  - 株式会社エス・アイ・シー
  - 鳥電商事株式会社
  - 株式会社あけぼのエンジニアリング

### ネットワーク



### 取締役・監査役

- 代表取締役会長 松木 晴雄
- 取締役副会長 木田 友康
- 代表取締役社長 中村 靖
- 取締役 福島 一郎
- 取締役 西尾 晃
- 取締役 加藤 明
- 社外取締役 坂部 進
- 社外取締役 松村 基史
- 社外取締役 末 啓一郎
- 社外取締役 相澤 馨
- 常勤監査役 伊藤 隆司
- 常勤監査役 加藤 昌彦
- 社外監査役 植村 公彦
- 社外監査役 瀧本 和男

### 執行役員

- 執行役員社長 中村 靖
- 執行役員専務 福島 一郎
- 執行役員常務 西尾 晃
- 執行役員常務 加藤 明
- 執行役員常務 奥田 昇
- 執行役員 清水 誠
- 執行役員 酒井 雅史
- 執行役員 初又 繁
- 執行役員 中村 英二
- 執行役員 山口 賢二
- 執行役員 藤井 泉智夫
- 執行役員 田畑 雅郎
- 執行役員 高木 雅宏
- 執行役員 中川 雅幸

### 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日
  - 定時株主総会の議決権 3月31日
  - 期末配当 3月31日
  - 中間配当 9月30日
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人兼特別口座管理機関 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
- 公告方法
  - 電子公告
  - 当社のホームページ(<http://www.metawater.co.jp/ir/notice/>)に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

## CSRの取り組み



社会と地球環境の持続可能な発展

### メタウォーターグループのCSRコンセプト

水で救える、大切な命がある。  
水で変わる、新しい暮らしがある。

水で解決できる、社会的な課題がある。  
地球にとってかけがえのない資源である「限りある水」

「いつでも どこでも だれもが  
水と共に安心して生きることができる社会を願ひ、  
たゆまぬ挑戦を続けていく」ことを思いながら、  
メタウォーターグループは社会の豊かな発展と  
持続的な地球環境の実現を目指していきます。

これこそがメタウォーターグループの  
果たすべき責任と存在意義と考え、  
CSR活動を推進していきます。

### 持続的なCSR活動

信頼性・透明性の高い経営、コンプライアンスの推進、内部統制機能の強化、公正・公平・適時・適切な情報開示に努め、事業活動を通じて社会に貢献するとともに、企業市民として社会貢献活動や環境保全活動にも持続的に取り組みます。また、経営に重大な影響を及ぼす様々なリスクへの対応と事業継続に向けた取り組みを推進してまいります。

### 社会貢献活動の一例



横浜市水道局と協働している水源林保全活動



水循環の大切さを伝える出前授業



宮城県女川町での復興支援活動

本事業は、当社がPFI法に基づき、荒尾市に提案し事業化されたもので、水道業務の大部分を当社グループが包括的に受託した全国でも先駆けとなるものです。近代日本の礎となった産業革命をエネルギー供給役として支えた荒尾で産声を上げたこの事業は、これからの水道インフラ持続の在り方をしめす新たな官民連携の取り組みです。

事業名	荒尾市水道事業等包括委託
対象業務	①経営および計画支援業務 ②管理支援業務 ③営業業務(料金徴収・窓口業務) ④設計建設業務 ⑤維持管理業務 ⑥危機管理対応業務
事業期間	2016年4月1日～2021年3月31日

産業革命のまち、荒尾を象徴する世界遺産「万田坑」



産業の革命を支えたまちから、水道の革命がはじまる。

### メタウォーターの挑戦 その1 「荒尾モデルの創出」

本事業は、市のベテラン職員の退職やローテーションによる異動があっても、しっかりと水道事業を維持できるよう、公民で人的基盤を確保する取り組みです。

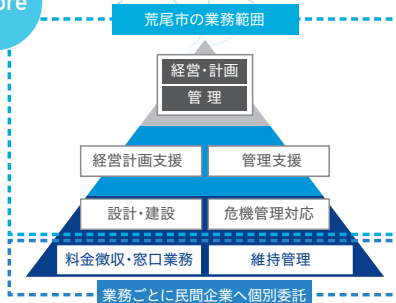
市民の生活に欠かせない水道事業の持続性確保のために荒尾市と当社が連携して創出した先進モデルです。

### メタウォーターの挑戦 その2 「広範囲な包括委託」

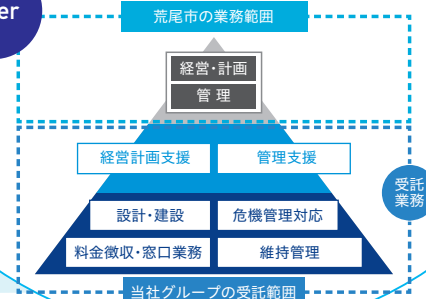
本事業は、お客様対応から水道施設の運転・維持管理、アセットマネジメント、さらには水道施設工事など水道事業全体に関する業務を包括的にを行います。

### 荒尾モデルイメージ図

Before



After



メタウォーター株式会社

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-25 JR神田万世橋ビル  
www.metawater.co.jp

